

シンポジウム：これからの大学体育・スポーツー体育授業必修化への回帰を目指してー

企画趣旨

福岡大学 藤井雅人

本シンポジウム「これからの大学体育・スポーツー体育授業必修化への回帰を目指してー」は、全国大学体育連合 第11回大学体育スポーツ研究フォーラムと九州地区大学体育連合（九体連）／九州支部 2022（令和4）年度春期研修会「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」の合同開催において、九体連／九州支部により以下のような趣旨に基づき企画されたものである。

九体連／九州支部は、その歴史を振りかえってみると、全国大学体育連合の発展、そしてまた大学体育全体の質向上に寄与してきたといえる（橋本，2021）。その基盤にあったのは、九体連／九州支部が主体的に関わる大学体育授業研究の成果であり、その伝統を受け継ぐ研究グループによる地道な授業研究への取り組みである。九体連／九州支部は、それらの研究の中心的な役割を担ってこられた橋本公雄氏（九州大学名誉教授，元熊本学園大学）に、研修会での講演や機関誌への寄稿（橋本，2021）を通して、これまで得られてきた授業研究成果への言及にとどまらず、そうした成果が具体的にどのように大学体育の発展につながってきたのか、そしてさらに今後どのように大学体育が展開され、それに各種大学体育連合組織がどのように関わっていくべきであるのかについてご教示いただいた。その中で我々にとってとりわけ興味深かったのは、橋本氏が長きにわたる授業実践・研究を経て開発された「挑戦的課題達成型体育授業」の実践とその教育効果であり、また各種大学体育連合組織の主導により各会員校にその授業実践と授業研究への取り組みを促すことが、大学体育授業の必修化への回帰につながるのではないかという橋本氏の主張であった。九体連／九州支部は、こうした橋本氏の取り組みを、各種大学体育連合組織が大学体育授業の選択化の流れに歯止めをかけ、必修化への回帰を目指すための1つの有力な方向性と位置づけるとともに、本シンポジウムにおいて全国の大学体育の質向上に関心を有する方々に紹介し、その有効性や改善点などについて議論できればと考えた。

以上のような企画趣旨に基づいて、本シンポジウムではまず、橋本氏にイントロダクションとして、「大学体育連合のミッションと大学体育の必修化を主張する授業研究」について、特に大学体育授業の必修化への回帰に寄与しうる「挑戦的課題達成型体育授業」の実践とその授業研究の意義を中心にご報告いただく。次いで、そうした「大学体育必修化への回帰に向けての方略」について、橋本氏および藤原大樹氏（崇城大学）よりお話しいただく。具体的には、テニスとバドミントンをそれぞれ教材とした「挑戦的課題達成型体育授業」実践およびそこで得られる心理学的側面からの教育成果についてご報告いただく。さらには、そこまでの報告を踏まえて、橋本氏に各種大学体育連合組織が主導すべき「『運動』としての大学体育必修化への回帰の具体的提言」を行っていただく。

大学教育が急激かつ大きく変化し、その中で大学体育が果たすべき役割も多様化してきている今、本シンポジウムのように大学体育、特に体育授業の存在意義やそのあり方についてより深く議論することが重要になっている。本シンポジウムが、大学体育の今後の発展に関心を有する方々にとって、様々な立場より情報・意見交換がなされ、大学体育の質向上に資する議論がなされる場となれば幸いである。

参考文献

橋本公雄. 研究ベースの九州地区大学体育連合70年を振り返る. 体育・スポーツ教育研究, 22 (1): 5-14, 2021